

題にぶつかる。そして、その答えを半ばわかっているようにも思える。それはリンデ自身やリンデの周囲を含む誰もがそれぞれ違っていたいびつさを持ちながら生きていくからだ、と。

彼女がいつも会いたいと願いつけて「心から一緒にいたいと思える相手」とは、リンデの持ついびつさと十分たがわずかみ合ういびつさを持つ相手のことではないだろうか。

大概のひとは、自分のいびつさにも他者のいびつさにも真正面から向かい合おうとはしない。その代わり、相手と自分の細かな差異に触れないように苦心したり、相手を自分の思い通りに動かそうとしたり、周りの空気に合わせて笑ったりする。

リンデはそれぞれのもしようとはしない。常にいつわりなく自分であらうとする彼女はいつもかすかな違和感に苛(さいな)まれる。それでも、ありのままの自分がびつたりと寄り添える他者が世界のどこかに存在するのではないかと、どこかを手放さない。そんなリンデの在り方には、息苦しいほどの痛々しさと感服するほどの強さが共存している。

H25. 8. 25 高知新聞 朝刊

## ベストセラーズ

### ■金高堂書店調べ

- ①曾野綾子著「人間にとって成熟とは何か」(幻冬舎・798円)
- ②近藤誠著「医者に殺されない47の心得」(アスコム・1155円)
- ③チームカツオ人間／編著「カツオ人間写真集」(角川書店・1050円)
- ④武吉孝夫著「昭和51年を歩く 高知市東部」(高知市の記録刊行会・2100円)
- ⑤桜木紫乃著「ホテルローヤル」(集英社・1470円)
- ⑥金丸弘美著「実践! 田舎力」(NHK出版・819円)
- ⑦有川浩案内、タ・ヴィンチ編集部／編「有川浩の高知案内」(メディアファクトリー・1155円)
- ⑧山口果林著「安部公房とわたし」(講談社・1575円)
- ⑨内田康夫著「北の街物語」(中央公論新社・1785円)
- ⑩門田隆将著「死の淵を見た男」(PHP研究所・1785円)

### ■八重洲ブックセンター本店調べ

- ①江口輝著「中小企業の事業承継実務AtoZ」(きんざい・1890円)
  - ②川島真著「皮膚に聴く からだのところ」(PHP研究所・798円)
  - ③曾野綾子著「人間にとって成熟とは何か」(幻冬舎・798円)
  - ④西内啓著「統計学が最強の学問である」(ダイヤモンド社・1680円)
  - ⑤桜木紫乃著「ホテルローヤル」(集英社・1470円)
  - ⑥長谷川慶太郎著「2014年～世界の真実」(ワック・940円)
  - ⑦板倉弘重著「ズボラでも血糖値がみるみる下がる57の方法」(アスコム・1000円)
  - ⑧池井戸潤著「ロスジェネの逆襲」(ダイヤモンド社・1575円)
  - ⑨樋口毅宏著「タモリ論」(新潮社・714円)
  - ⑩林原靖著「破綻」(ワック・1575円)
- ＝8月21日

## 「医療大転換」ほか

### ★新書だより

テレビやネットに健康情報があふれる背景には、現行の医療制度に根強い不信があるのではないかと。家庭医療に取り組んできた医師、葛西龍樹は「医療大転換」(ちくま新書・77円)で、画期的

な改革案を示す。

副題は「日本のプライマリ・ケア革命」。プライマリ・ケア(1次医療)とは、「身近にあつて、何でも相談のつてくれる総合的な医療サービス」である。オランダ、シンガポールなどでは、プライマリ・ケアを行う「家庭医」だ。

不信に陥るこの現状を変える改革案として注目したい。自分の体質に合った生き方を選択することで、健康に長生きできると説くのは、東洋医学を専門とする丁宗鑑著「名医が伝える漢方の知恵」(集英社新書・756円)だ。

## 健康のための意識改革

している。

家庭医は、質の高いプライマリ・ケアを提供するための教育と訓練を受けた専門医である。地域に暮らす人々の健康を、患者の家族も含めて長期にわたって診る。手

### ★新刊選

#### ■「実写1955年体制」(宇治敏彦著)

55年体制の崩壊から20年。38年間の自民党一党支配時代とは何だったのか。政治記者として体制を深く取材した著者が、その光と影を再考する。

田中角栄首相の政策づくりを手伝い、ゴーストライターを務めた裏話をはじめ、政官財の幅広い人脈との逸話を語る。2世議員が増えた今の政界の活力不足を憂い、池田勇人のようなリーダーの必要を指摘す

名医が伝える漢方の知恵

